

平成 27 年度入局式 靱井会長講話 要旨

入局おめでとう。心より歓迎いたします。

ぜひ皆さんにお伝えし、ご理解いただきたいことがあります。それは放送法です。我々のバックボーンとして非常に大切なものです。早速読んでいただき、心に置いて、研修を受けてほしいと思います。放送法のエッセンスを一言で言えば、放送は「事実に基づき、公平・公正、不偏不党、何人からも規律されない」ということです。とくに NHK は「公共の福祉のために、あまねく日本全国において」、事実に基づく報道や、豊かで質の高い多彩な番組を提供することが使命です。広く意見が分かれているような論点に関して、視聴者を何か特定の方向や意見にリードする、ということはあってはならず、視聴者の皆さまに判断をしていただくということが、我々 NHK の使命です。これらの基本的なことから、放送法の 1 条から 4 条、15 条に書かれています。ぜひ読んでいただきたいと思います。

放送には、ニュースや教育、娯楽など、多様な役割があります。その一つとして「安全・安心、命と暮らしを守る」災害・緊急報道についてお話しします。日本でラジオ放送がはじまったのは、90 年前の 1925 年。関東大震災から 1 年半という、まだその傷も癒えていない時代のことです。4 年前の東日本大震災では、テレビやラジオ、インターネットで、刻一刻と変化する被害の状況を伝えました。今も復興への道のりが続いています。昨年も広島市での土砂災害や、御嶽山の噴火などで、多くの方々が被害にあいました。90 年前も現在も変わらないのは、人々が最も必要とするのは、信頼できる正確で迅速な情報だということです。そして NHK には、視聴者・国民の生命と財産を守るため、確かな情報を迅速に伝える責任があります。NHK は法律によって「指定公共機関」に指定された唯一の報道機関です。渋谷の放送センターでは、ほぼ毎晩、緊急報道訓練が行われています。全国には 500 台のロボットカメラ、130 台の中継用車両、15 機のヘリコプターが配備され、災害や緊急報道の際、いち早く情報を伝える速報体制を敷いています。全国の放送局は安全・安心の拠点として、命と暮らしを守る放送を続けます。災害や事件・事故は突然起こります。常に視聴者・国民の「安全・安心、命と暮らしを守る」ことに心を留めておいていただきたいと思います。今日から皆さんもその一員になるわけです。

もう一つ、「豊かで多彩な番組をお届けする」という点についてお話しします。私も朝の連続テレビ小説や大河ドラマは、1 人の視聴者としても楽しみにしています。番組制作の現場に視察に行くことも多々あります。「あさイチ」のスタジオ、朝ドラや大河ドラマのロケ、子供向けの人形劇の収録など、行くたびに放送現場独特の緊張感と熱気を感じます。1 人 1 人の職員がプロとしてプライドを持ち全力を尽くしていると同時に、上下関係や立場を超え、自由に意見を言い合い、力を合わせる雰囲気が、現場には充満しています。皆さんも、はじめは先輩の仕事の謙虚に学び、同時に良い番組を作ろう、良い仕事をしようという

気持ちを大切に、言うべきことは言う気持ちで頑張ってもらいたいと思います。

今日は、NHKの新しい3か年経営計画のはじまる日でもあります。2つのポイントをお話しします。

1つは「国際発信の強化」です。日本の魅力を世界の人たちに伝え、国際社会での日本への理解を促進します。英語による国際放送「NHKワールドTV」は、今週から大型ニュース番組や討論番組などを新たに編成し、さらに充実した内容になりました。国内でも、日本を訪れた観光客や英語を勉強している方々にも見てもらえるよう、ケーブルテレビでの配信や、インターネットでのライブストリーミングを行っています。スマホのアプリもありますので、ぜひダウンロードしてください。

もう1つは「放送と通信の融合」です。今日から改正放送法が施行され、NHKが実施できるインターネットを活用した業務の幅が広がりました。一部のスポーツイベントでの、テレビ放送の同時配信の実験など、実施基準にのっとり、新しいサービスに積極的に取り組みます。将来的には、受信料制度との関係、著作権処理や配信コストの問題など、課題もたくさんありますが、実験を通じて解決に取り組みます。今後ますますインターネットの時代が加速していきますので、将来のサービスをどうしていくのかという課題は、皆さんのような若手職員にも、真剣に検討していただきたいと思っています。

2020年、東京にオリンピック・パラリンピックがやってきます。前回1964年は、NHKをはじめ日本の放送関係者が総力をあげてテレビでオリンピック放送を実現し、世界最初のテレビオリンピックとも呼ばれました。撮影から衛星中継まで一連の機器を国産で開発し、世界に初めて生中継しました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、NHKは8Kスーパーハイビジョンや最高水準の放送・サービスを視聴者の皆さまにお届けし、より身近で信頼されるメディアとなることを目指します。4K・8Kは、国の定めたロードマップを踏まえ、2020年に本格的な普及を目指し、先導的な役割を果たしていきます。4K・8Kコンテンツも積極的に制作します。自然や世界遺産を取り上げた「NHKスペシャル」や、スポーツ中継など、高精細映像の魅力を十分に楽しめる番組を中心に、8Kカメラによる撮影を進めます。

受信料制度についてお話しします。今年度の総収入は約6800億円、そのほぼ全てが受信料です。豊かな放送サービスや新しい取り組みは、安定した受信料収入なしには実現できません。受信料は、NHKの運営費用を視聴者の皆さまに直接ご負担いただき、豊かで良い放送をあまねく全国に届けること、国や広告主の影響を避けて自律的に番組編集を行うことを、財政面から支えるものです。私たちは常に受信料の重みを認識して業務にあたる必要があります。同時に、受信料の公平負担を徹底することが重要です。3年後の2017年度末には過去最高の支払率80%、衛星契約割合50%を目指します。そのために、支払率の低い大都市圏などに重点を置いた新たな営業施策もスタートします。

ワーク・ライフ・バランスについてお話しします。ここにおられる皆さんの31.7%は女性です。男女ともに働きやすい職場を作り、女性がより一層活躍で

きる社会を実現していくには、公共放送 NHK が、他の会社の一步先を走るくらいの気持ちで取り組まねばなりません。今、管理職に占める女性の割合は 5.2% ですが、2020 年までに 2 倍以上にするという数値目標を掲げています。今日、渋谷の放送センター近くのビルに、NHK グループの従業員のお子さんをお預かりする保育施設がオープンしました。子育てと仕事を両立する職員、女性の活躍を後押しする施策です。男女の職員が利用できます。これから仕事もプライベートも、ぜひ充実した人生を送っていただくことを願っています。

NHK には優秀な人材が豊富にいます。たくさんのプロフェッショナルがいます。はじめは先輩に叱られることも多いかもしれませんが、常に前向きに考えて一生懸命勉強し、自らを成長させて欲しい。勉強していくことが非常に大事で、自分の生活を充実させることに、結果としてなると思います。視野を広く持ち、バランスのとれた感覚も養ってください。先輩とよく話し、自分の職場以外のことも良く知って、自分の幅を広げていただきたいと思います。

もう 1 つ、仕事で大切にしてほしいのは、何のために働いているんだということ。自分のために働くことはもちろんですが、自分の損得を捨てて働くことが大事だと思います。NHK というのは、こんなに素晴らしい舞台はないわけ。その中で私心を捨て、視聴者のために、NHK のために、という気持ちで仕事をすれば、おのずから視野が広がり、立派な人間になっていけると思います。そういう気持ちでやってもらえれば、周りから信頼を NHK は得られ、皆さんの個人的な信頼も増すと思います。

もう 1 つ大事なことは情報管理です。取材や業務で知り得た情報は、NHK の仕事のためのもので、自らの利得のために使ってはなりません。職場の情報を外部に持ちだしたり、軽い愚痴や自慢のつもりでソーシャルメディアなどに仕事の話を書いたり、そういうことはつつしんでいただきたいと思います。

先ほども言いましたが、今年が放送開始 90 年です。今からは「放送 100 年」に向かって進むわけですが、どのような放送やサービスをお届けできるのか、皆さんの肩にかかっています。NHK にとって何が大事かを考え、前例にこだわることなく、新しいことをどんどん取り入れていただきたいと思います。

研修の期間中、自分は何のために働くのかという社会人としての根本を、ぜひ仲間と議論し、自分の頭にたたき込んでもらいたいと思います。自分の仕事に対してプロフェッショナルであってほしい。自分は一生懸命やって誰にも負けないプロだという気持ちを持って、自分が納得できる仕事をしてもらいたいと思います。

ご活躍を期待します。未来に向かって、一緒に、前に進んでいきましょう。

以上